

業医科大) 編. 精神科薬物治療: こんなときどうするべきか: 精神科臨床エキスパート. 東京: 医学書院, 2015. p.215-26.

V. その他

- 1) 小野和哉, 小豆島沙木子, 青木啓仁, 江藤亜沙美, 湯澤美菜, 杉原亮太, 鈴木優一, 山尾あゆみ, 尾作恵理, 瀬戸 光, 沖野慎治, 中村晃士, 中山和彦. Aripiprazole が有効であった小児期崩壊性障害 (ICD-10) の1症例. 精神医 2015; 57(3): 211-8.
- 2) 西村 浩(厚木市立病院), 川上正憲(那須高原病院). Mirtazapine と warfarin との併用により PT-INR が著明に延長した1例. 精神誌 2015; 117(10): 820-5.
- 3) 川上正憲(那須高原病院), 中村 敬, 中山和彦. アトピー性皮膚炎に身体醜形障害を併存する1例をめぐる考察. 皮膚症状への“とらわれ”に対する外来森田療法. 心身医 2015; 55(4): 359-66.
- 4) 川上正憲(那須高原病院), 中村 敬, 中山和彦. ある統合失調症女性患者との精神療法の臨床経験. 森田療法の基底にある人間観を視座として. 精神科治療 2015; 30(5): 707-12.
- 5) 品川俊一郎, 中山和彦. 音楽嗜好症 (musicophilia) を呈した右側優位側頭葉萎縮の1例. Brain Nerve 2015; 67(11): 1443-8.

小児科学講座

教授: 井田 博幸	先天代謝異常
教授: 大橋 十也	先天代謝異常 (遺伝子治療研究部に出向中)
教授: 浦島 充佳	臨床疫学 (分子疫学研究部に出向中)
教授: 和田 靖之	小児感染免疫学
准教授: 宮田 市郎	小児内分泌学
准教授: 勝沼 俊雄	小児アレルギー学
准教授: 加藤 陽子	小児血液腫瘍学
准教授: 斎藤 義弘	小児感染免疫学
准教授: 小林 博司	先天代謝異常 (遺伝子治療研究部に出向中)
講師: 藤原 優子	小児循環器学
講師: 田知本 寛	小児アレルギー学
講師: 秋山 政晴	小児血液腫瘍学
講師: 小林 正久	先天代謝異常・新生児学
講師: 浦島 崇	小児循環器学

教育・研究概要

I. 代謝研究班

ムコ多糖症Ⅱ型 (MPS Ⅱ) では酵素補充療法, 造血幹細胞移植では骨に対する効果は少ない。造血幹細胞を標的とした遺伝子治療は血清中での酵素活性が著明に上昇するため, 骨にも効果があるのではとの仮説を立て研究を開始した。まず本症の骨病変の評価法を検討した。骨吸収, 骨形成のバイオマーカーを検討したが, 有意なものはなく, 定量的な組織学的評価, 放射線学的評価が有用である事が明らかとなった。また MPS Ⅱのある種の遺伝子変異には2糖よりなる化合物がシャペロン効果を認めることを明らかにした。また, 他部署との共同研究で MPS Ⅱの遺伝子編集による遺伝子治療法の研究も開始した。さらに, ファブリー病の痛みに対する AAV ベクターを用いた遺伝子治療法の研究を開始し治療用 AAV ベクターの作成を終了した。今年特記すべきは, 海外企業と契約の上, ファブリー病ならびにムコ多糖症Ⅱ型の遺伝子治療の治験に向けての討議に入ったことである。

II. 神経研究班

基礎研究では, 小児難治てんかんのドラベ症候群と PCDH19 関連てんかんに関し, 分子病態解明と細胞治療を含む新たな治療の開発を目指し, 患者 iPS 細胞, モデルラットを用いた研究を再生医学研究部と共同で行っている。前者については高品質な

神経細胞の誘導方法を検討し、後者については、てんかん原性獲得過程のさらなる解明を目指し、小動物 MRI を用いた研究を開始した。臨床研究では、埼玉地区のてんかん発作重積小児例の救急搬送時間を検討し、受診まで平均 40 分要することがわかり、救急医療体制の問題点を指摘した。また、本邦 PCDH19 関連てんかん患者でステロイド治療効果を検討し、その有効性を明らかにした。さらに、小児の脳出血、脳梗塞の長期予後について調査し、その現状を明らかにした。

Ⅲ. アレルギー研究班

主な研究対象は、1. 基礎分野（マスト細胞、好酸球、気道上皮細胞）、2. 喘息、3. 食物アレルギー、4. アトピー性皮膚炎、5. アレルギー治療である。喘息、食物アレルギー治療に関して、いくつかの大規模臨床研究を行った。現在進行中の介入研究を以下に記す。1) ORIMA study (Effect of oral immunotherapy in preschool children with milk allergy)、2) DIFTO study (Daily versus intermittent Inhaled fluticasone in toddlers with recurrent wheezing: A multicenter, double-blind, randomized controlled study)。2) は乳児喘息を対象に、ステロイド間欠吸入の効果、連日吸入を対照に実施する世界初の非劣性試験であり、AMED 委託研究である。また世界に類を見ないユニークな研究として、鼻炎を有する児の嗅覚について調査中である。

Ⅳ. 血液腫瘍研究班

小児悪性腫瘍に対する新規治療や診断技術開発を目指し、日本小児腫瘍研究グループ (JCCG)、東京小児がん研究グループ (TCCSG) の多施設共同臨床研究に参加している。この中で、小児がん経験者の晩期合併症の調査、小児緩和ケアの調査を行った。先天奇形症候群に合併した悪性腫瘍の発生メカニズムを解明するために、次世代シーケンサーを用いた Cancer Panel による網羅的癌関連遺伝子の解析を進めている。特に、Gorlin 症候群に発症した髄芽腫や Phacomatosis pigmentokeratocica に合併した Wilms 腫瘍の遺伝子解析を行った。網膜芽細胞腫の長期フォローにおける尿ポリアミン解析の腫瘍マーカーとしての有用性では、再発症例では尿中ポリアミンの上昇を認めることを報告した。

Ⅴ. 感染免疫研究班

国立成育医療研究センター研究所成育遺伝研究部において、2014 年 7 月国内で初めて慢性肉芽腫症

(CGD) に対する遺伝子治療を実施したが、その経過について評価、検討を加え報告した。また、CGD 腸炎に対するサリドマイドの有効性、安全性の研究や新生児免疫不全症のマスクリーニングの確立なども行った。さらに、ウイルス学講座において、突発性発疹の原因ウイルスで、熱性けいれんや脳炎を引き起こすヒトヘルペスウイルス 6 (HHV-6) の脳内での増殖に、IL-1 β と basic fibroblast growth factor (bFGF) が関与していることを astrocytoma cell line を用いて明らかにした。HHV-6 脳炎の患者髄液中の IL-1 β と bFGF の上昇も認められ、両因子が HHV-6 脳炎の経過に重要な役割を果たしていることが示唆された。

Ⅵ. 循環器研究班

基礎的研究として肺動脈絞扼術による右室圧負荷モデルラットによる右室リモデリングの検討、体肺側副血行発現モデルラットによる新生血管発生機序の検討、左心疾患による肺高血圧動物モデルの作成を行った。臨床研究として Fontan 術後の心機能評価、Fontan 術後の肝繊維化マーカーの検討、先天性心疾患術後の蛋白漏出性胃腸症における便中 calprotectin の検討、感染性心内膜炎の臨床経過の検討、イオンチャンネル病の遺伝子検査の臨床的有用性、PICU における小児循環器疾患患者の医療安全の検討などを行った。

Ⅶ. 腎臓研究班

本年度は主に臨床研究を行った。まず、日本小児腎臓病学会が主体で行っている小児慢性腎臓病 (CKD) の疫学調査と日本の人口動態統計調査、さらに OECD の health data を使用し、小児期発症の CKD が出生体重や出生週数と関連があるかどうかを検討した。その結果、低出生体重で生まれることに加えて早産で生まれることが小児期発症の CKD と強い関連があることが認められた。また、ステロイド依存性/ステロイド抵抗性ネフローゼ症候群 (SDNS/SRNS) における不可逆性シクロスポリン腎症 (CsAN) の危険因子の検討も行った。その結果、以前より指摘されている CsA の血中濃度や投与期間を遵守したとしても、SRNS 児では他児と比較して高率に CsAN を認めることが判明した。従って、SRNS 症例は SDNS 症例よりもより短期の CsA 投与を行うことが望ましいと考えられた。

Ⅷ. 内分泌研究班

基礎的研究では、大学院生が派遣先の早稲田大学

先端生命医科学センター統合脳科学研究室において GnIH (gonadotropin-inhibitory hormone) と甲状腺ホルモンとの間における制御機構について検討を行い、甲状腺ホルモンが GnIH の発現を抑制することを明らかにした。臨床的研究では、MCT8 (Monocarboxylate transporter 8) 異常症の3症例において *SLC16A2* 遺伝子の新規変異を同定するとともに、いずれの症例にも内分泌学的な多様性が認められ、その結果を英文論文で報告した。また、地域の学校健診・小児生活習慣病予防健診において PCAPS を導入することにより、小児内分泌疾患早期発見・早期治療のプロセスを構築した。さらに、厚木市における小・中学生の学校糖尿病検診の7年間の結果をまとめたところ尿糖陽性者の精検率は7年間で100%を維持し、1型および2型糖尿病の発症率は、10万人年あたりそれぞれ1.58, 2.28であり、全国平均とはほぼ同等であった。

〔点検・評価〕

小児科診療の特性には、「成長・発達」以外に、各小児科医が個別の専門性をもちながらも幅広い疾患領域に対応できる「Pediatric generalist」としての技能が求められることが挙げられる。一方、現在の情報化社会において高品質な小児科診療を提供し続けるためには、各領域の専門性の高さと同時に、異なる専門領域間の医師がシームレスに連携・協力し、集学的医療を提供できる体制を維持することが重要である。このような特性について、本講座は講座内のみならず、小児外科、脳神経外科、心臓外科など他科とも良好な連携を保ち、単一領域の専門性を要する疾患のみならず、多領域にわたる知識・技能を要する複合的疾患の症例を積極的に受け入れ、2014年度以上に診療体制の強化が図れている。さらに、2015年度の小児科学講座への入局者数は18名に上り、良好な人間関係と職場環境の形成、仕事内容の充実化、魅力的な教育体制の構築を目指した対策の結果であると考えている。このように良質な診療レベルの保持と豊富な人材確保を達成しつつある状況下で、研究の質も着実に向上しつつある。

本講座の研究領域は、代謝（先天代謝異常、奇形症候群）、神経、アレルギー、血液腫瘍、感染免疫、循環器、腎臓、内分泌、精神、新生児の10分野から構成され、各研究班とも2015年度の業績は前年と同程度以上で、全体として英文論文数は増加した。本講座で年2回開催する小児医学研究会では、基礎研究・臨床研究ともに深く検討された若手の演題が増加した。また、日本小児科学会専門医試験の受験

資格に来年度から筆頭論文が必要条件となることを契機に現在、早期からの論文教育を推進しており、今後の研究活動のさらなる活性化につながるも期待される。2015年度の各研究班の点検・評価は以下の通りである。

代謝研究班はこれまで通り、大学院生の受け入れ、海外派遣、国内外での学会・論文報告を継続している。さらに、ウイルスベクターによる代謝異常症の遺伝子治療の実現化に向けて着実に歩を進めており、さらなる躍進が期待される。神経研究班は、2013年度に開始した基礎研究を軌道に乗せ、2015年度に1名大学院へ進学した。今後は基礎研究人員を増やし、さらに発展させる必要がある。また、複数の臨床研究を推進しており、2016年度には論文業績に結びつけたい。アレルギー研究班は、複数の高品質な臨床研究を推進し、若手の研究指導も精力的に行っている点で高く評価される。2015年度はこれらの活動が着実に実りつつあり、2016年度は複数の論文業績に結実することが期待される。血液腫瘍研究班はこれまでに引き続き、種々の症例について次世代シーケンシングによる遺伝子解析を軸とした病態研究を着実に継続し、安定した成果と論文業績を出しており高く評価される。循環器研究班は、心疾患モデルラットの作成と病態研究を継続し、2015年度は大学院生1名が研究を開始した。現在、成果も得られつつあり、来年度は論文化させることが求められる。腎臓研究班は、小児腎臓病学会との共同で全国規模の臨床研究にも積極的に参加し、成果が得られつつある。また、若手の班員増加、研究マインドの育成に伴い、論文数は増加し、2015年度に1名大学院へ進学した。堅実に発展を維持している。内分泌研究班はこれまで同様、国内外の学会発表、複数の論文報告を行った。他施設へ派遣した大学院生の基礎研究成果も得られつつあり、安定した業績を維持している。

以上を総括して、2015年度の研究業績は全体として改善傾向と考える。今後さらに業績、特に英文論文数を増やす必要があるが、診療体制の向上、教育体制の充実とともに、若手の研究意欲・活動は着実に活性化していること、また、基礎研究を推進する研究班が増えていることから、2016年度以降、研究業績の数・質の向上が期待される。

研究業績

I. 原著論文

- 1) Wakabayashi T, Shimada Y, Akiyama K (Kitasato Univ), Higuchi T, Fukuda T, Kobayashi H, Eto Y

- (Inst Neurological Disorders), Ida H, Ohashi T. Hematopoietic stem cell gene therapy corrects neuropathic phenotype in murine model of mucopolysaccharidosis type II. *Hum Gene Ther* 2015; 26(6) : 357-66.
- 2) Sato Y, Kobayashi H, Higuchi T, Shimada Y, Era T¹⁾, Kimura S¹⁾ (¹Kumamoto Univ), Eto Y (Inst Neurological Disorders), Ida H, Ohashi T. Disease modeling and lentiviral gene transfer in patient-specific induced pluripotent stem cells from late-onset Pompe disease patient. *Mol Ther Methods Clin Dev* 2015; 2 : 15023.
- 3) Higurashi N, Takahashi Y (Natl Epilepsy Ctr), Kashimada A¹⁾, Sugawara Y¹⁾ (¹Tokyo Med Dent Univ), Sakuma H (Tokyo Metropolitan Inst Med Sci), Tomonoh Y²⁾, Inoue T²⁾, Hoshina M (Ohara General Hosp), Satomi R (JA Toride Med Ctr), Ohfu M (Okinawa Prefectural Southern Med Ctr & Children's Med Ctr), Itomi K (Aichi Children's Health Med Ctr), Takano K (Shinshu Univ), Kirino T (Shikoku Med Ctr Children Adults), Hirose S²⁾ (²Fukuoka Univ). Immediate suppression of seizure clusters by corticosteroids in *PCDH19* female epilepsy. *Seizure* 2015; 27 : 1-5.
- 4) Kikuchi K, Hamano S¹⁾, Higurashi N, Matsuura R, Suzuki K, Tanaka M¹⁾, Minamitani M¹⁾ (¹Saitama Children's Med Ctr). Difficulty of early diagnosis and requirement of long-term follow-up in benign infantile seizures. *Pediatr Neurol* 2015; 53(2) : 157-62.
- 5) Iwasawa S¹⁾, Nakano M¹⁾, Tsuboi T¹⁾, Kochi T¹⁾, Tanaka S (Jumonji Univ), Katsunuma T, Morikawa A (Gunma Univ), Omae K T¹⁾ (¹Keio Univ). Effects of sulfur dioxide on the respiratory system of Miyakejima child residents 6 years after returning to the island. *Int Arch Occup Environ Health* 2015; 88(8) : 1111-8.
- 6) Koga T¹⁾, Tokuyama K¹⁾, Itano A¹⁾, Morita E¹⁾, Ueda Y¹⁾ (¹Saitama Med Univ), Katsunuma T. Usefulness of modified Pulmonary Index Score (mPIS) as a quantitative tool for the evaluation of severe acute exacerbation in asthmatic children. *Allergol Int* 2015; 64(2) : 39-44.
- 7) Odajima H¹⁾, Ebisawa M (Sagamihara Natl Hosp), Nagakura T (Yoga Allergy Clin), Fujisawa T (Mie Natl Hosp), Akasawa A (Tokyo Metropolitan Children's Med Ctr), Ito K (Aichi Children's Health Med Ctr), Yamaguchi K (Fraternity Memorial Hosp), Katsunuma T, Kurihara K (Kanagawa Children's Med Ctr), Kondo N (Gifu Univ), Sugai K (Fukuyama Med Ctr), Nambu M (Tenri Hosp), Hoshioka A (Chiba Children's Hosp), Yoshihara S (Dokkyo Med Univ) Sato N²⁾, Seko N²⁾ (²Novartis Pharma), Nishima S¹⁾ (¹Fukuoka Natl Hosp). Omalizumab in Japanese children with severe allergic asthma uncontrolled with standard therapy. *Allergol Int* 2015; 64(4) : 64-70.
- 8) Akiyama M, Yamaoka M, Terao MY, Yoko, Yokoi K, Inoue T, Hiramatsu T, Ashizuka S, Yoshizawa J, Katagi H, Ikegami M, Ida H, Nakazawa A (Natl Ctr Child Health Development), Okita H¹⁾, Matsumoto K¹⁾ (¹Natl Res Inst Child Health Development). Paraneoplastic syndrome of angiomatoid fibrous histiocytoma may be caused by *EWSRI-CREBI* fusion-induced excessive interleukin 6 production. *J Pediatr Hematol Oncol* 2015; 37(7) : 554-9.
- 9) Yokokawa Y, Taki T¹⁾, Akiyama M, Kobayashi S¹⁾, Nagoshi H¹⁾, Chinen Y¹⁾, Morimoto A (Jichi Med Univ), Ida H, Taniwaki M¹⁾ (¹Kyoto Prefectural Univ). Unique clonal relationship between T-cell acute lymphoblastic leukemia and subsequent Langerhans cell histiocytosis with *TCR* rearrangement and *NOTCH1* mutation. *Genes Chromosomes Cancer* 2015; 54(7) : 409-17.
- 10) Fujimoto Y, Urashima T, Shimura D, Ito R, Kawachi S¹⁾, Kajimura I, Akaike T, Kusakari Y, Fujiwara M, Ogawa K¹⁾ (¹Saitama Children's Med Ctr), Goda N (Waseda Univ), Ida H, Minamisawa S. Low cardiac output leads hepatic fibrosis in right heart failure model rats. *PLoS One* 2016; 11(2) : e0148666.
- 11) Kawai T¹⁾, Arai K¹⁾, Harayama S, Nakazawa Y¹⁾, Goto F¹⁾, Maekawa T¹⁾, Tamura E, Uchiyama T¹⁾, Onodera M¹⁾ (¹Natl Ctr Child Health Development). Severe and rapid progression in very early-onset chronic granulomatous disease-associated colitis. *J Clin Immunol* 2015; 35(6) : 583-8.
- 12) Sato N¹⁾²⁾, Hasegawa T³⁾⁴⁾ (⁴Keio Univ), Hasegawa Y¹⁾⁵⁾ (⁵Tokyo Metropolitan Children's Med Ctr), Arisaka O³⁾⁶⁾ (⁶Dokkyo Med Univ), Ozono K³⁾⁷⁾ (⁷Osaka Univ), Amemiya S³⁾⁸⁾ (⁸Saitama Med Univ), Kikuchi T³⁾⁹⁾ (⁹Niigata Univ), Tanaka H¹⁾³⁾, Harada S³⁾¹⁰⁾ (¹⁰Natl Inst Child Health Development), Miyata I, Tanaka T¹⁾²⁾³⁾ (¹Study Group of Treatment for MHH, ²Tanaka Growth Clin, ³Pharmaceutical Affairs Committee, Japanese Soc Pediatric Endocrinology). Treatment situation of male hypogonadotropic hypogonadism in pediatrics and proposal of testosterone and gonadotropins replacement therapy protocols. *Clin Pediatr Endocrinol*

2015; 24(2) : 37-49.

- 13) 平田佑子¹⁾, 浜野晋一郎¹⁾, 松浦隆樹¹⁾, 南谷幹之¹⁾, 田中 学¹⁾ (¹埼玉県立小児医療センター), 菊池健二郎, 井田博幸. 小児期発症のてんかんにおけるレベチラセタムの使用経験. 日小児会誌 2015; 119(6) : 964-9.
- 14) 菊池健二郎, 浜野晋一郎¹⁾, 樋渡えりか¹⁾, 平田佑子¹⁾, 大場温子, 熊谷勇治¹⁾, 小一原玲子, 田中学, 南谷幹之¹⁾ (¹埼玉県立小児医療センター), 井田博幸. 小児てんかん重積状態からみる小児救急医療体制の現状と問題点. 日小児会誌 2015; 119(8) : 1226-32.
- 15) 和田靖之, 南波広行, 久保政勝, 北島晴夫, 齋藤義弘, 井田博幸. 若年性特発性関節炎における赤血球動態の検討. 小児診療 2015; 78(6) : 835-9.
- 16) 山田哲史, 藤永周一郎¹⁾, 原 太一¹⁾, 漆原康子¹⁾ (¹埼玉県立小児医療センター), 平野大志, 大友義之(順天堂大), 井田博幸. シクロスポリン投与前に高用量ミゾリピン療法を施行したステロイド依存性ネフローゼ症候群の長期的検討. 日小児腎臓病学会誌 2015; 28(2) : 140-4.

II. 総 説

- 1) 井田博幸. 小児科専門医制度の現状と今後. 日小児科医学会報 2015; 50 : 34-7.
- 2) 大橋十也. 【遺伝子治療の臨床展開】 遺伝性白質ジストロフィーに対する造血幹細胞遺伝子治療. 血液フロンティア 2015; 25(5) : 613-23.
- 3) 浜野晋一郎. 【小児核医学検査 - こんな時にこんな検査を】 小児脳神経核医学検査. 日小児放線会誌 2015; 31(2) : 123-31.
- 4) 赤司賢一, 勝沼俊雄. 【実地臨床に役立つ食物アレルギーの最新情報】 対応 集団生活でのアナフィラキシー対応. 小児診療 2015; 78(9) : 1201-4.
- 5) 加藤陽子. 小児がんの子どもと家族を支える (第14回) 小児がん患者, 家族のための end-of-life (EOL) ケアとは. 保健の科学 2015; 57(10) : 693-9.
- 6) 宮田市郎. 【私の処方 2015】 内分泌・代謝疾患の処方 甲状腺機能低下症・亢進症. 小児臨 2015; 68(4) : 859-64.
- 7) 宮田市郎. 【疾患からみる画像診断の進め方・読み方】 内分泌疾患 思春期早発症. 小児診療 2015; 78(増刊) : 63-8.

III. 学会発表

- 1) Hoshina H, Shimada Y, Higuchi T, Kobayashi H, Eto Y, Ida H, Ohashi T. Sulfated disaccharide from heparin are chaperone candidate for treatment of mucopolysaccharidosis type II. SSIEM (Society for the Study of Inborn Errors of Metabolism) Annual Sym-

posium 2015. Lyon, Sept.

- 2) Matsuoka R, Kubota M, Mochizuki H, Kagimoto S, Ida H. Differential diagnoses of hypergalactosemia by newborn screening: value of the Gal-1-P/Gal ratio and the serum total bile acid concentration in detecting congenital portosystemic shunts. SSIEM (Society for the Study of Inborn Errors of Metabolism) Annual Symposium 2015. Lyon, Sept.
- 3) Higurashi N. (Symposium 5: Update on childhood epilepsy research: bedside to the bench) New technologies in epilepsy research. ASPR 2015 (11th Congress of Asian Society for Pediatric Research). Osaka, Apr.
- 4) Higurashi N, Hirose S (Fukuoka Univ). (APPA Symposium 1) *PCDH19* female epilepsy. 53rd Annual Conference of Indian Academy of Pediatrics (PEDI-CON), 15th Asia Pacific Congress of Pediatrics (APCP), 5th Asia Pacific Congress of Pediatric Nursing (APCN). Hyderabad, Jan.
- 5) Kikuchi K. (Session 3) Treatment for benign convulsions with mild gastroenteritis. 17th Annual Meeting of the Infantile Seizure Society. Tokyo, Sept.
- 6) Inoue T, Akashi K, Watanabe M, Ikeda Y, Ashizuka S, Motoki T, Suzuki R, Sagara N, Yanagida N, Sato S, Ebisawa E, Ohta S, Ono J, Izuhara K, Katunuma T. (Poster discussion: Paediatric asthma and allergy: lung function and biomarkers) Usefulness of periostin as a biomarker of pediatric asthma. ERS (European Respiratory Society) International Congress 2015. Amsterdam, Sept.
- 7) Inoue T¹⁾, Ogura K¹⁾, Yanagida N¹⁾, Ogawa A¹⁾, Nagakura K¹⁾, Asaumi T¹⁾, Ogura K¹⁾, Manabe T¹⁾, Sato S¹⁾, Ebisawa M¹⁾ (¹Sagamihara Natl Hosp). (Poster sessions 2-3: Food allergy) Analysis of 71 cashew nut oral challenge tests. WAC 2015 (24th World Allergy Congress). Seoul, Oct.
- 8) Urashima T, Itohisa M, Fujimoto Y, Ito R, Kawachi S, Fujiwara M, Minamisawa S, Ida H. (Poster session I : Cardiology 1507: cardiovascular sciences-basic and translational studies) Reverse remodeling of right ventricle heart failure in PA debanded model rat. PAS 2015 (Pediatric Academy Societies Annual Meeting). San Diego, Apr.
- 9) Ito R, Urashima T, Itohisa M, Baba S, Fujimoto Y, Iijima M, Kawachi S, Fujiwara M, Ogawa K (Saitama Children's Medical Center), Minamisawa S. (Featured research session 9: Congenital heart disease/Kawasaki's disease 1) Assessment of biological characteristics for angiogenesis in aorto-pulmonary col-

- lateral artery model rat with left pulmonary artery ligation under hypoxia environment. 第80回日本循環器学会学術集会. 仙台, 3月.
- 10) 横井健太郎, 山岡正慶, 湯坐有希, 野中雄一郎, 秋山政晴, 柳澤隆昭, 井田博幸. (一般演題 ポスター: 血液・腫瘍1 (中央神経系腫瘍)) 当院における頭蓋内純胚細胞腫14例の後方視的検討. 第118回日本小児科学会学術集会. 大阪, 4月.
- 11) 山岡正慶, 佐藤洋平, 大山 亘, 寺尾陽子, 横井健太郎, 秋山政晴, 小林博司, 大橋十也, 井田博幸. (口演12: 患者の実態調査) 先天代謝異常症に対する造血幹細胞移植12例の後方視的解析. 第57回日本先天代謝異常学会総会. 大阪, 11月.
- 12) 和田靖之, 平田佑子, 木村絢子, 小野英利奈, 西山由梨佳, 南波広行, 久保政勝, 井田博幸. (一般演題ポスター: 免疫・膠原病7 (炎症性疾患・その他)) 長期にわたり経過観察しえた無菌性慢性骨髓炎6例の臨床像の検討. 第118回日本小児科学会学術集会. 大阪, 4月.
- 13) 岡井真史, 石川尊士, 南波広行, 高島典子, 和田靖之, 齋藤義弘, 久保政勝, 河合利尚, 大石 勉. (一般演題 (口演): EBVとCMZ) Human Parvovirus B19感染症により顕在化した慢性活動性EBウイルス感染症の1例. 第47回日本小児感染症学会総会・学術集会. 福島, 10月.
- 14) 日馬由貴, 武政洋一, 角皆季樹, 久保田淳, 相良長俊, 山田浩介, 秋山直枝, 齋藤義弘, 井田博幸. (一般演題 (口演): 感染対策) 市中病院で血液培養手技を標準化すると検査感度は上昇するか? 第47回日本小児感染症学会総会・学術集会. 福島, 10月.
- 15) 日馬由貴, 齋藤義弘, 井田博幸, 水野泰孝. (ポスター: その他の感染症: マイコプラズマ, 結核, マラリア, カリニ) 著明な血小板減少を呈した三日熱マラリアの家族内発症例. 第47回日本小児感染症学会総会・学術集会. 福島, 10月.
- 16) 平野大志, 石倉健司, 上村 治, 濱崎祐子, 中井秀郎, 伊藤秀一, 原田涼子, 服部元史, 大橋靖雄, 田中亮二郎, 中西浩一, 金子徹治, 飯島一誠, 本田雅敬. (一般演題 (口演): CKD・移植) 本人における早産低出生体重児と小児期発症慢性腎臓病の関連. 日本小児腎臓病学会学術集会第50回記念大会. 神戸, 6月.
- 17) 山田哲史, 西野智彦, 小澤香菜子, 櫻谷浩志, 平野大志, 藤永周一郎. (一般演題 (口演): ネフローゼ) ステロイド依存性/ステロイド抵抗性ネフローゼ症候群における不可逆性シクロスポリン腎症の危険因子の検討. 日本小児腎臓病学会学術集会第50回記念大会. 神戸, 6月.
- 18) 小野英利奈, 大島早希子, 有賀賢典, 今井祐之, 藤原 誠, 櫻井舞子, 難波範行, 大園恵一, 宮田市郎. (ポスター6: 甲状腺2) *SLC16A2* 遺伝子の exon3 内に5塩基挿入の新規変異が同定された MCT8 異常症の1例. 第88回日本内分泌学会学術総会. 東京, 4月.
- 19) 小澤綾子, 本木隆規, 齋藤義弘, 宮田市郎, 望月 弘, 依藤 亨, 井田博幸. (一般演題 口演: その他の糖尿病2) 肺炎罹患時の高血糖を契機に診断された MODY2 の一卵性双胎例-OGTT での評価の重要性について-. 第58回日本糖尿病学会年次学術集会. 下関, 5月.

IV. 著 書

- 1) 井田博幸. 第6章: 先天代謝異常 Fabry 病. 水口雅 (東京大), 市橋 光 (自治医科大), 崎山 弘 (崎山小児科) 総編集. 今日の小児治療指針. 第16版. 東京: 金原出版, 2015. p.220.
- 2) 日暮憲道, 廣瀬伸一 (福岡大). 第11章: てんかんおよびてんかん類似症候群 9. *PCDH19* 関連てんかん. 兼本浩祐 (愛知医科大), 丸 栄一 (前日本医科大), 小国弘量 (東京女子医科大), 池田昭夫 (京大), 川合謙介 (NTT 東日本関東病院) 編. 臨床てんかん学. 東京: 医学書院, 2015. p.447-8.

V. その他

- 1) Sato Y, Fujiwara M, Kobayashi H, Yoshitake M, Hashimoto K, Oto Y (Dokkyo Med Univ), Ida H. Residual glycosaminoglycan accumulation in mitral and aortic valves of patient with attenuated MPS I (Scheie syndrome) after 6 years of enzyme replacement therapy: implications for early diagnosis and therapy. *Mol Genet Metab Rep* 2015; 5: 94-7.
- 2) Akiyama M, Yamaoka M, Terao MY, Ohyama W, Yokoi K, Arakawa Y, Takita J (Univ Tokyo), Suzuki H, Yamada H. Somatic mosaic mutations of *IDH1* and *NPM1* are associated with cup-like acute myeloid leukemia in a patient with Maffucci syndrome. *Int J Hematol* 2015; 102(6): 723-8.
- 3) 日馬由貴¹⁾, 相良長俊, 宇野匡裕¹⁾, 渡辺真理子¹⁾, 武政洋一, 角皆季樹, 久保田淳, 山田浩介, 秋山直枝¹⁾, 後藤隆廣¹⁾, 渡辺 修¹⁾ (¹⁾富士市立中央病院), 齋藤義弘. 血液培養から non typeable *Haemophilus influenzae* が分離された小児細菌性副鼻腔炎. *日臨微生物誌* 2015; 26(1): 41-6.
- 4) 森 琢磨, 河内文江, 細谷通靖¹⁾, 菅本健司¹⁾, 菱谷 隆¹⁾, 星野健司¹⁾, 小川 潔¹⁾ (¹⁾埼玉県立小児医療センター), 井田博幸. 乳児期に診断し長期経過観察している Uhl 病の一例. *日小児循環器会誌* 2016; 32(1): 56-61.